

6 富士山の世界文化遺産登録に向けて

静岡県からの
お知らせ

……………イコモスの現地調査が終了！平成25年登録に向け大きく前進！……………

富士山の世界文化遺産登録に係るイコモス(国際記念物遺跡会議)の現地調査が、8月29日から9月5日までの8日間の日程で行われ、調査員のリン・ディステファノ氏が静岡県と山梨県の両県に25ある構成資産について、主に保存管理の状況を確認しました。

山梨県側に続き、9月2日から静岡県側でも調査が始まり、3日には富士宮市の富士山本宮浅間大社などを訪れました。

リン・ディステファノ氏は、文化庁や静岡県の担当者、神社関係者らが湧玉池や拝殿の説明をすると、時折頷いたりしながら熱心に聞き入っていました。

また、イコモスの現地調査が終了した5日には、静岡市内のホテルで文化庁や静岡・山梨両県の担当者らが出席して記者会見が行われました。その中で、文化庁の石野文化財部長は、調査を終えた感想を「調査には万全の形で対応できた。一定程度の理解を得られたのでは」、「来年6月には世界遺産への登録ができる」と確信を持っている」と述べました。

静岡県は、国、山梨県、関係市町村等と連携し、平成25年の富士山世界文化遺産への登録が確実となるよう万全を期してまいりますので、引き続き、皆様の御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



富士山本宮浅間大社での調査の様子

……………『富士山世界文化遺産両県県民会議』会員取組事例紹介……………

平成24年2月23日の富士山の日に発足した「富士山世界文化遺産両県県民会議」の会員様の活動事例について御紹介します。

富士山世界文化遺産御殿場市民推進協会

平成23年12月27日に、富士山を保全し、その魅力を世界に伝え、市民レベルから富士山世界文化遺産登録に向けた取組を後押しするため設立されました。

推進協会は、平成25年の登録実現に向け、「市民の集い」や「構成資産巡りツアー」を開催し、富士山の文化的価値について理解促進を図る取組を進めるほか、市内在住の日本画家 湯山東氏の作品をモチーフにしたポスターの作成や地元高校生との協働によりパンフレットを作成するなど、地元機運を盛り上げています。また、市内在住のシンガーソングライター西島三重子氏が「こころのふるさと～富士山～」を推進歌として制作し、更なる機運の盛り上げを図っています。



富士山世界文化遺産御殿場市民推進協会の皆さん
(中央は若林御殿場市長)

世界に誇る日本のシンボル富士山を
みんなで未来へ引き継いでいこう！

県民会議の入会について…
詳しくは、

富士山世界文化遺産両県県民会議

検索

